

目次

1.Windows のログオンユーザーを確認する	2
■WindowsXP/Windows7/WindowsServer2003 の確認方法	2
■WindowsVista/WindowsServer2008 の確認方法	3
2.インストール前のネットワーク確認事項	3
3-1.Gaia9 がすでにインストールされている場合	5
■サーバー・クライアントのシステム更新	5
■データ更新	5
3-2.BeingCabinet がすでにインストールされている場合	7
4.インストール時の注意	8
■ポート番号について	8
■他社製品について	8
■データのバックアップについて	8
■アンインストールについて	9
5.Gaia9 初期導入手順	9
6.Gaia9 ネットワーク版の注意事項	9
■データ更新の注意事項	9
7.Gaia9 スタンドアロン版からのデータ移行の制限事項	10
8-1.Gaia9 にて GaiaRX のデータを使用する	10
8-2.Gaia9 にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する	13
■GaiaMX・Gaia21 にて工事の保存を行う	13
■Gaia9 にて工事の読込を行う	14
9.プロテクトドライバをインストールする	18
■プロテクトドライバを個別にインストールする	18
■プロテクトドライバを手動でインストールする(セットアップメニューからインストールできない場合)	19
10.SQL Anywhere 9 を個別にインストール	21
11.ダウンロード手順	22
12.よくあるエラー	27
13.Windows Vista/Windows 7 でご使用時の注意事項	30
14.「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」と表示される	32
15. BeingCabinet の使用について	33
16.インターネットプロテクトについて	35
■お客様ご契約情報について	35
■ライセンスを変更する場合	35
■ライセンスの返却について	35
17. Gaia9 ネットワーク版のインストールマニュアル、インストール FAQ を表示する	36

1.Windowsのログオンユーザーを確認する

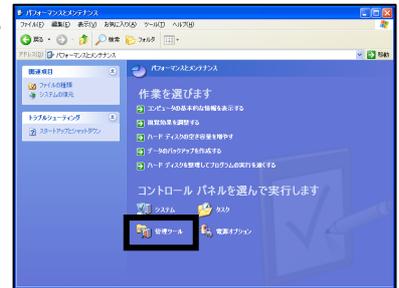
インストールを行う場合、Windows のログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを行って下さい。

WindowsXP/Windows7/WindowsServer2003 の確認方法

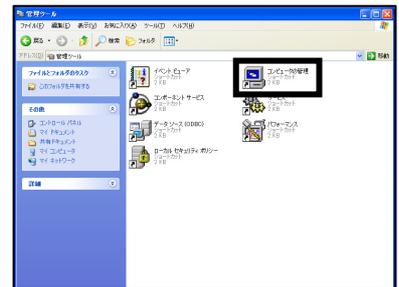
Windows の[スタート] - [コントロールパネル] - [管理ツール]をクリックします。

WindowsXP で[管理ツール]が表示されていない場合

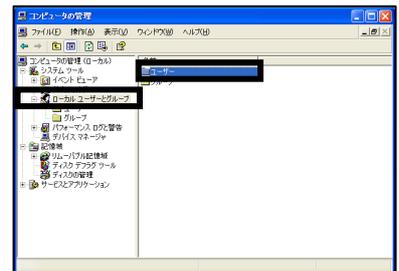
Windows の[スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [管理ツール]をクリックして下さい。



「管理ツール」画面が表示されます。
[コンピュータの管理]をダブルクリックします。



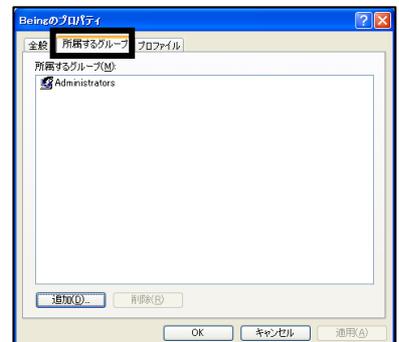
「コンピュータの管理」画面が表示されます。
画面左側の「ローカルユーザーとグループ」をクリックし、画面右側の
[ユーザー]をダブルクリックします。



確認したいユーザーの名称をダブルクリックします。



「プロパティ」画面が表示されます。
「所属するグループ」タブをクリックし、Administrator 権限を持つ
グループに所属しているかを確認して下さい。



WindowsVista/WindowsServer2008 の確認方法

(WindowsVista の場合)

Windows の[スタート] - [コントロールパネル] - [ユーザーアカウント]内の[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]をクリックします。

(WindowsServer2008 の場合)

Windows の[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [ユーザーアカウント]内の[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]をクリックします。

(管理者の場合)

ログオンユーザーが Administrator 権限を持っている場合、右図の画面が表示されます。

確認ができましたら[キャンセル]をクリックし、終了します。



(管理者以外の場合)

ログオンユーザーが Administrator 権限を持っていない場合、右図の画面が表示されます。

Administrator 権限のある管理者アカウントを選択し、パスワードを入力して下さい。



2. インストール前のネットワーク確認事項

インストールを行う前に、サーバー機、クライアント機それぞれに必ず確認を行って下さい。

サーバー管理者にご確認のうえ、行って下さい。

コマンドプロンプトにて Ping コマンドを使うことによって、サーバーとクライアント間のネットワーク接続自体に問題がないかを確認します。

確認方法

<<Gaia9 のサーバー機の場合>>

BeingCabinet 工事書庫サーバーとのネットワーク接続を確認します。

以下のサーバーのコンピュータ名にて、「***」に BeingCabinet 工事書庫サーバー名を入力してご確認下さい。

<<Gaia9 のクライアント機の場合>>

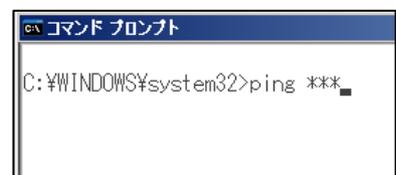
BeingCabinet 工事書庫サーバーと Gaia9 サーバーのネットワーク接続を確認します。

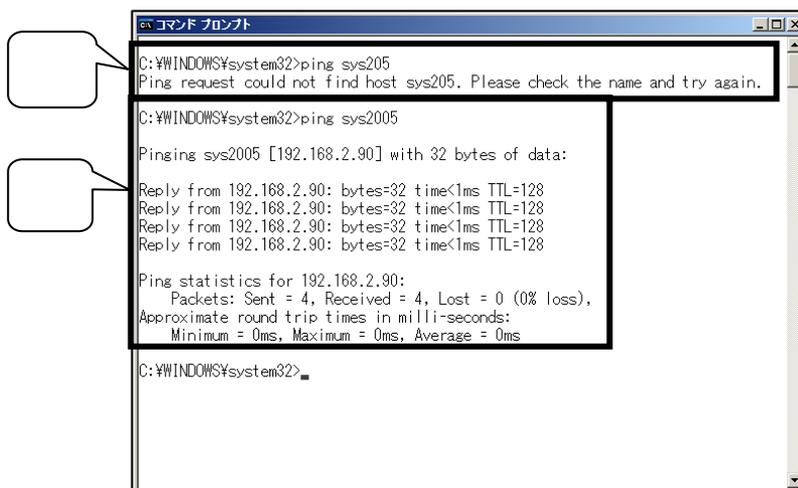
以下のサーバーのコンピュータ名にて、「***」に BeingCabinet 工事書庫サーバー名、Gaia9 サーバー名を入力してご確認下さい。

BeingCabinet 工事書庫サーバー名と Gaia9 サーバー名が異なる場合は 2 回 Ping コマンドでの確認が必要です。

Windows の[スタート] - [プログラム]-[アクセサリ] - [コマンドプロンプト]を起動し、キーボードから「ping ***」(*** =サーバーのコンピュータ名)

(Ping の後には半角スペースが入ります。)と入力し、[Enter]キーを押します。





例) サーバーのコンピュータ名が「sys2005」の場合

上図 :

「Ping request could not find host sys205. Please check the name and try again.」
ファイアウォールソフトにより使用できない状態の場合もあります。

上記メッセージが表示された場合は、入力した名称のコンピュータと接続できていないことを示します。
サーバーの名称・ネットワーク環境をご確認下さい。
メッセージ内容は異なる場合があります。

上図 :

「Pinging sys2005[192.168.2.90] with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.2.90: bytes=32 time=1ms TTL=128
Reply from 192.168.2.90: bytes=32 time=1ms TTL=128
Reply from 192.168.2.90: bytes=32 time=1ms TTL=128
Reply from 192.168.2.90: bytes=32 time=1ms TTL=128

Ping statistics for 192.168.2.90:
Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
Approximate round trip times in milli-seconds:
Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

上記のメッセージが表示された場合、サーバーと正しく通信できています。
サーバーの IP アドレスが正しく表示されているかを、ネットワーク管理者にご確認下さい。
IP アドレスに間違いがある場合は、DNS による名前解決が正しく行われていない可能性があります。
ネットワーク管理者にご相談して下さい。

3-1.Gaia9がすでにインストールされている場合

■ サーバー・クライアントのシステム更新

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、「Gaia9 システム」を選択します。
「Gaia9 システム選択」画面が表示されますので、「Gaia9 ネットワーク版」を選択します。
「積算システム インストール」画面が表示されます。
[サーバー]または[クライアント]をクリックします。
新規インストールと同様の手順にて、システム更新を行います。

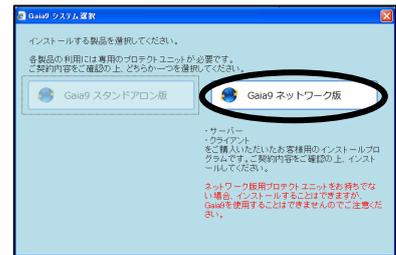
●プロテクトの確認

BeingCabinet サーバーのコンピュータに「Cabinetライセンス」プロテクトが装着されていることをご確認下さい。

※「エラー12 Calling Sprointialize」というメッセージが表示される場合「[9.プロテクトドライバをインストールする\(P.18\)](#)」をご参照のうえ、古いバージョンのプロテクトドライバを削除してから、USB プロテクトドライバのインストールを行って下さい。その後、Gaia9 のインストールを行って下さい。

<DVD が自動起動しない場合>

[スタート]—[コンピュータ]をクリックします。DVD ドライブを選択し、「Gaia9」の DVD の中の「Setup.hta」をダブルクリックすると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」が起動します。



■ データ更新

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、「Gaia9 地域データ」を選択します。

<データ更新 DVD が自動起動しない場合>

[スタート]—[コンピュータ]をクリックします。DVD ドライブを選択し、「Gaia9」の DVD の「地域データ」フォルダ内の「DataSetup」をダブルクリックすると、「データ更新ツール」が起動します。



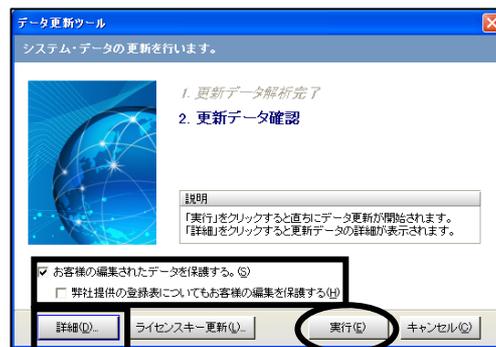
「データ更新ツール」が起動します。

Gaia9クライアントでは、システム、Excel帳票、設計書入出力オプションの様式のみ更新できます。

Gaia9サーバーは、全てのデータを更新できます。

「詳細設定」画面について

データ更新を行う際、必要に応じて詳細設定を行うことができます。



- ・「データ更新ツール」画面にて、[詳細]をクリックすると、右図の「詳細設定」画面が表示されます。
- ・画面左側のツリーでデータの年度を選択すると、画面右側の「詳細」欄に選択したデータの詳細が表示されます。
- ・[全データを表示]をクリックすると、既存のデータを含め、全データが表示されます。
- ・[未更新データのみ表示]をクリックすると、更新対象データのみが表示されます。
- ・画面左側のツリーにて、更新が必要なデータを選択し、[閉じる]をクリックします。



Gaia9サーバーにデータ更新を行う場合のみ、「お客様の編集されたデータを保護する」の選択が表示されます。
(Gaia9クライアントを更新する場合は表示されません。)

編集したデータを保護したい場合は、必ず、画面左下の[お客様の編集されたデータを保護する]にチェックを付けた状態で、[実行]をクリックします。詳しくは、下記「お客様の編集されたデータを保護する」について」をご参照下さい。

[実行]をクリックします。

データ更新後、データ共有のため更新したデータを、BeingCabinetに保存する場合[保存する]をクリックして下さい。お使いのマシンで、保存が必要なデータすべてをBeingCabinetに保存します。保存する必要がない場合は、[終了]をクリックします。

すべての保存処理が完了すると、「BeingCabinetへの更新データの保存が完了しました。」の画面が表示されます。

注意点

「お客様の編集されたデータを保護する」について

「お客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

また、「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けると、弊社提供の登録表(単価登録の単価表、および工種登録の表)についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

追加する年度には、 のマークが付きます。 上書きする年度には、 のマークが付きます。

データの各モードについて

- ・ユーザーモード...お客様が作成したデータ(No欄の数字が黒色のデータ)
- ・ピーニングモード...ピーニングが作成したデータ(No欄の数字が青色のデータ)
- ・代理店モード...ピーニングおよび代理店で作成したデータ(No欄の数字が紫色のデータ)

「お客様の編集されたデータを保護する」にチェックがついている場合、年度を追加する場合と上書きする場合それぞれにおいて、保護されるデータを表にまとめました。

保護する対象内容	年度追加	年度上書き
単価登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。

フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
単価表の作成	すべてのモードの単価表が保護されます。	すべてのモードの単価表が保護されます。
単価表の表内の編集	ユーザーモードの単価表のみ編集した内容が保護されます。	すべてのモードの単価表を編集した内容が保護されます。
損料登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
工種登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
工種登録の表		
表の作成(自動積算の実行)	すべてのモードの表が保護されます。	すべてのモードの表が保護されます。
表の表内の編集	ユーザーモードの表のみ編集した内容が保護されます。	すべてのモードの表を編集した内容が保護されます。
単価管理		
ブロックの作成	すべてのモードのブロックが保護されます。	すべてのモードのブロックが保護されます。
ブロック名の変更	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。
地区の作成	すべてのモードの地区が保護されます。	すべてのモードの地区が保護されます。
地区名の変更	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。
年度名称の変更	-	すべてのモードの変更した年度名称が保護されます。
エキスパートエディタ(オプション)		
歩掛の作成	すべてのモードの歩掛が保護されます。	すべてのモードの歩掛は保護されません。

3-2. BeingCabinetがすでにインストールされている場合

古いバージョンの BeingCabinet がすでにインストールされている場合、バージョンアップを行う必要があります。

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、[BeingCabinet]を選択します。

<「積算システム インストールディスク選択メニュー」画面が自動起動しない場合>

[スタート]-[コンピュータ]を起動します。

「Gaia9」の DVD 中の「BeingCabinet」フォルダ内の「Setup.exe」をダブルクリックすると、「BeingCabinet セットアップ」画面が起動します。

「BeingCabinet セットアップ」画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

以降の手順は、Gaia9 ネットワーク版インストールマニュアルの「BeingCabinet サーバー、Gaia9 サーバーの設定(P.7)」をご参照下さい。



4.インストール時の注意

■ ポート番号について

パーソナルファイアウォール等の設定がされている場合は、サーバー管理者にご確認のうえ、下記のポートの制限を解除して下さい。制限を解除しても問題が解消できない場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

Gaia9 サーバー側

NO	ポート	プロトコル	通信方向	用途
1	80, 443	TCP	送信	ダウンロード、インターネットプロテクト
2	25	TCP	送信	メール送信 ※機能の有効にしている時のみ
3	2638,49152～49170	TCP/UDP	送信	データベースのアクセス
4	80(8080、8008) ※参照	TCP	送信	BeingCabinet/Gaia9 サーバー通信
5	49998,49999	TCP	送受信	メッセージの送受信
6	2638,49152～49170	TCP/UDP	受信	データベースのアクセス
7	80(8080、8008)	TCP	受信	BeingCabinet
8	1024～65535	TCP	受信	サーバー通信

Gaia9クライアント側

NO	ポート	プロトコル	通信方向	用途
1	80, 443	TCP	送信	ダウンロード、インターネットプロテクト
2	25	TCP	送信	メール送信 ※機能の有効にしている時のみ
3	2638,49152～49170	TCP/UDP	送信	データベースのアクセス
4	80(8080、8008) ※参照	TCP	送信	BeingCabinet/Gaia9 サーバー通信
5	49998,49999	TCP	送受信	メッセージの送受信
6	2638,49152～49170	TCP/UDP	受信	データベースのアクセス
7	1024～65535	TCP	受信	サーバー通信

※ (8080)・・・80が使われていた場合の第2優先

※ (8008)・・・80が使われていた場合の第3優先

■ 他社製品について

Gaia9 ではデータベースとしてアイエニウェア・ソリューションズ株式会社の「SQL Anywhere」、Borland 株式会社の「Borland DataBase Engine」を使用しています。インストール時に以下の製品がインストールされます。

詳細については各製品のオンラインヘルプまたは README ファイルをご覧ください。

- ・ SQL Anywhere Studio 9.0.2
以上の製品の著作権はアイエニウェア・ソリューションズ株式会社が所有しています。
- ・ Borland Database Engine
以上の製品の著作権は Borland 株式会社が所有しています。
- ・ UNLHA32.DLL
UNLHA32.DLL は Micco 氏のフリーソフトウェアです。
- ・ UnZip32.DLL
UnZip32.dll Copyright (C) 1990-2002 Info-ZIP. All Rights Reserved.
- ・ ファイルのプレビューにおいて、アドバンスソフトウェア株式会社の著作物である「VB-Report Ver3.0 (ActiveX 版)」を再配布条件に基づき使用しています。

注意点

- ◆ Gaia9 に付属する SQL Anywhere は、Gaia9 以外の用途に使用することは認められていません。
- ◆ Gaia9 以外の用途に使用される場合は、別途 SQL Anywhere のパッケージをお買い上げ下さい。
また、不正使用によるトラブルは、当社は一切責任を負わないものとします。ご了承下さい。

■ データのバックアップについて

お客様が作成されたデータは定期的にバックアップをお取り下さい。

ハードディスクの障害等でデータが破損した場合、単価データ、工種データ等は、インストール用 DVD から出荷時の状態に復旧できますが、お客様が入力された単価データ・工種データ等は消えてしまいます。

また、積算された工事データは DVD からは復旧できません。

工事のバックアップは、「工事名表」の[工事を保存]メニューを、その他のデータについては「起動メニュー」から[データ管理]を起動し、「データを保存」をお使い下さい。

また、「起動メニュー」から[ユーザーサポート]を起動し、「データベースユーティリティ」にてデータベースファイルごとバックアップすることも可能です。

詳しくは、Gaia9 のオンラインヘルプをご覧ください。

アンインストールについて

Gaia9 サーバー、Gaia9 クライアントのアンインストールでは、データベースファイルは削除されません。アンインストール後、同じディレクトリに再インストールを行った場合、既存(アンインストールされずに残っている)のデータベースをそのまま使用することが可能です。

5. Gaia9 初期導入手順

Gaia9 導入時に行う作業をご説明します。Gaia9 のインストールを行ってから、積算を行うまでに、この初期導入手順を元に各種設定、登録を行っておくと、スムーズに積算を開始することができます。あくまでも参考手順ですので、必ずこの手順に従わなければいけないということではございません。

会社情報の登録を行って下さい。

<<Gaia9 サーバーの場合>>

「工事名表」画面にて、メニューバーの[ツール] - [会社情報を設定]をクリックします。「プロパティ」画面が表示されますので、必要な項目を入力し[OK]をクリックして下さい。

<<Gaia9 クライアントの場合>>

「工事名表」画面にて、メニューバーの[ツール] - [会社情報を設定]をクリックします。「プロパティ」画面が表示されますので、必要な項目を入力し[OK]をクリックして下さい。

土木工事積算システム GaiaRX をお使いのお客様で、Gaia9 で GaiaRX のデータをお使いになる場合は、移行ツールで移行を行って下さい。移行ツールの操作手順は、「[8-1.Gaia9 にて GaiaRX のデータを使用する \(P.10\)](#)」をご参照下さい。

土木工事積算システム GaiaMX・Gaia21 をお使いのお客様で、GaiaMX・Gaia21 のデータを Gaia9 でお使いになる場合は、GaiaMX・Gaia21 でデータの保存を行った後、Gaia9 サーバーを起動し、GaiaMX・Gaia21 のデータの読込を行って下さい。

「GaiaMX・Gaia21 でのデータの保存」、「Gaia9 へのデータの読込」についての手順は、「[8-2.Gaia9 にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する \(P.13\)](#)」をご覧ください。

6. Gaia9 ネットワーク版の注意事項

データ更新の注意事項

単価、歩掛などのサーバー側でインストールするデータは、サーバーにてダウンロード、データ更新を行う必要があります。

クライアントから、ダウンロード、データ更新を行うことはできません。

また、クライアントでは「データ管理」が起動できないため、年度作成、地区作成、マスタ登録、データの保存、データの読込なども行うことができません。

7. Gaia9 スタンドアロン版からのデータ移行の制限事項

Gaia9 ネットワーク版のインストールの際に Gaia9 スタンドアロン版のデータを移行できますが、以下の制限があります。

移行先	データ項目								
	マスタ	単価	歩掛	経費	工事	ユーザー管理	単語リスト	工種履歴 (設計書入出 オプション)	印刷フォーム
Gaia9 サーバー									
Gaia9 クライアント	×	×	×	×		×	×	×	

○ : 移行できます。 × : 移行できません。

・ Gaia9 スタンドアロン版から Gaia9 クライアントへのデータの移行は、工事データ・印刷フォーム・Excel 帳票のみ移行できます。 単価や歩掛、単価履歴などのデータは Gaia9 クライアントへの移行はできません。

・ 以下のような各種設定は、スタンドアロン版から Gaia9 ネットワーク版へ移行できませんので、ご注意下さい。

「工事名表」画面 …… 「表示」メニューの「文字のサイズ」
「設定」メニューの「表示色の設定」
「設定」メニューの「終了時の自動格納」

「単価・工種登録」画面 …… 「表示」メニューの「名称・規格列を固定する」
「お気に入り」メニュー

・ Gaia9 ネットワーク版にて各種設定を個別に行ってください。

8 - 1. Gaia9 にて GaiaRX のデータを使用する

移行ツールを使用して、GaiaRX のデータを Gaia9 へ移行します。
必ずしも行わなくてはいけない手順ではありません。

注意点

下記のケースに該当する場合は、移行ツールは起動できません。

- ・ 同一のパソコンに Gaia9 と GaiaRX がインストールされていない場合
- ・ Gaia9 のプロテクトではない場合
- ・ GaiaRX と Gaia9 のインストール形態が異なる場合
(例: GaiaRX がネットワーク版サーバーで Gaia9 がスタンドアロン版など)
- ・ GaiaRX のバージョンが、[8.19.0.67]より古い場合。

移行ツールを起動します。

移行ツールは、

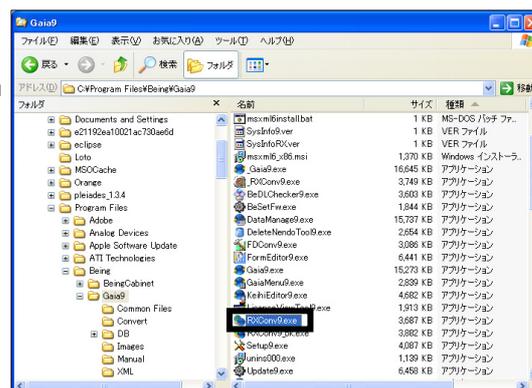
「(インストールドライブ):%Program Files%Being%Gaia9%RXConv9.exe」

64 ビット環境では、

「(インストールドライブ):%Program Files (x86)%Being%Gaia9」

に格納されています。

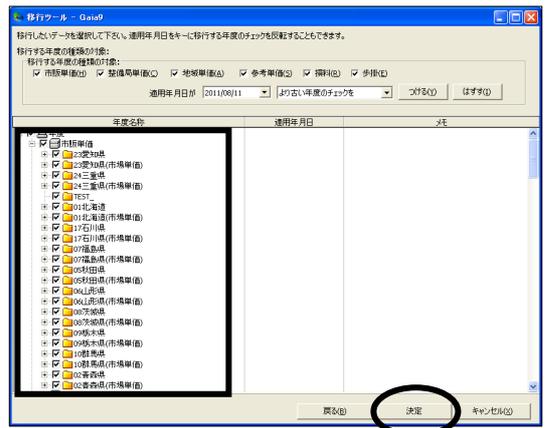
RXConv9.exe をダブルクリックして移行ツールを起動します。



GaiaRX の工事を選択します。
 移行したい工事にチェックを付けます。
 [次へ]をクリックします。



年度を選択します。
 GaiaRX で Gaia9 に移行したい年度にチェックを付けます。
 [決定]をクリックします。



・移行できるデータは下表の通りです。

移行対象データ		対象	
BeingCabinetのデータ	工事	×	
	ユーザー情報	×	
	工事、ユーザー情報以外のデータ	×	
GaiaRXのデータ	工事	1	
	単価	1	
	工種	1	
	損料	1	
	経費	×	
	新土種	×	
	ユニットプライス	×	
	ユーザー情報		
	発注者情報	経費カスタマイズ以外 経費カスタマイズ	2 ×
	単価選択履歴		
	マスタ	単位マスタ 業者マスタ 落札業者マスタ 要素マスタ 丸めマスタ 条件マスタ プライス条件マスタ 最低制限調査基準マスタ 実行工種履歴 自動積算丸めマスタ 諸雑費情報	
	Excel帳票		×
	フォームファイル		×
	オプション		
	CommonFileフォルダ配下		

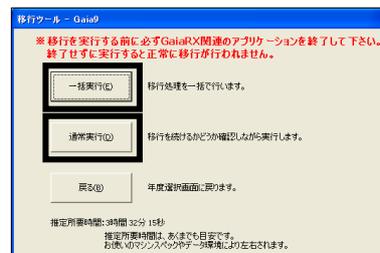
… 移行可能
 … 条件付で
 移行可能
 × … 移行不可

- 1 移行時に、移行するデータの選択可
- 2 ユーザー作成成分のみ上書き禁止で移行を行います

実行モードを選択します。

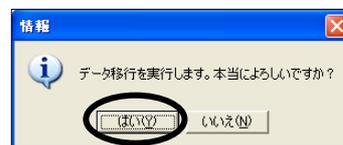
[一括実行]・・・すべてのデータの移行処理を一括で行います。

[通常実行]・・・移行するデータが切り替わる時に、移行を続けるかどうかの確認メッセージが表示されます。



[一括実行]または[通常実行]をクリックすると、右図の確認メッセージが表示されます。

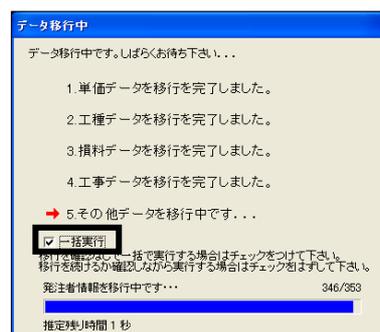
[はい]をクリックします。



移行処理が行われます。

で[一括実行]を選択した場合でも、「データ移行中」画面で一括実行のチェックをはずすと、移行を続けるかどうかの確認メッセージを表示することができます。

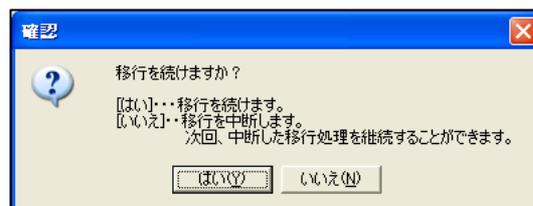
で[通常実行]を選択した場合でも、「データ移行中」画面で一括実行にチェックを付けると、確認メッセージを表示せずに一括で処理することができます。



「通常実行」を選択した場合、移行処理が切り替わるタイミングで右図の確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、移行処理をそのまま続けます。

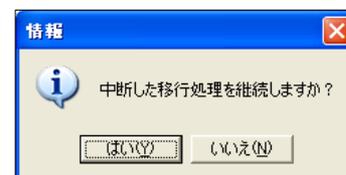
[いいえ]をクリックすると、移行処理を中断します。



[いいえ]をクリックし、移行処理を中断した場合、次回、移行ツールを起動すると、中断した処理を継続するかどうかの確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、手順 の実行モードを選択する画面が表示されます。

「いいえ」をクリックすると、手順 の GaiaRX の工事を選択する画面が表示されます。



右図のメッセージが表示されると、データの移行処理は完了です。



8 - 2. Gaia9 にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する

土木工事積算システム GaiaMX・Gaia21 で使用していた工事を Gaia9 に移行します。

単価データ・歩掛データの移行が必要な場合は、お近くの営業所、販売店までお問い合わせ下さい。

注意点

Gaia9 にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用される場合は、いくつか制約事項があります。

「[制約事項 \(P.16～17\)](#)」にて、内容をご確認下さい。

積算が完了している工事データを閲覧のために読み取り専用でご利用いただくことをおすすめします。

GaiaMX・Gaia21 のデータは、Gaia9 の [Gaia9 起動メニュー] - [ユーザーサポート] の「データベースユーティリティ」からは移行できません。以下の手順で行って下さい。

Gaia9 クライアントでは、GaiaMX・Gaia21 の工事データ・印刷フォームのみ移行できます。

GaiaMX・Gaia21 にて工事の保存を行う

Gaia9 (サーバーまたはクライアント) にて工事の読込を行う

GaiaMX・Gaia21 にて工事の保存を行う

GaiaMX (Gaia21) 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。
画面および手順は GaiaMX のものとなります。Gaia21 の場合とは一部異なりますのでご了承下さい。
工事書庫の工事を Gaia9 にてご使用になる場合は、「工事の退避」を行う前に工事書庫から工事名表に
工事を取り出しておいて下さい。
ユニットプライス工事は取り込めません。

[スタート] - [プログラム] - [GaiaMX*** (Gaia21)] - [GaiaMX (Gaia21)] をクリックします。 (***) は Client または Server です。)

工事名表を開き、ツールバーの  をクリックします。

メニューバーの [ツール] - [退避] をクリックしても同様です。

[GaiaMX (Gaia21) 起動メニュー] - 「データ管理」画面から
工事を保存することもできます。
画面左側の「データ管理機能一覧」より、[退避] をクリックします。
画面右側の「退避項目一覧」より、「工事の退避」をダブルクリックします。



<印刷フォームの場合>

印刷フォームは、[GaiaMX (Gaia21) 起動メニュー] - 「データ管理」画面
または [GaiaMX (Gaia21) 起動メニュー] - 「フォームエディタ」画面から保存します。
「データ管理」画面の場合、画面左側の「データ管理機能一覧」より、
[退避] をクリックします。
画面右側の「退避項目一覧」より、「フォームファイルの退避」を
ダブルクリックします。
「フォームエディタ」画面の場合、メニューの [ファイル] - [バックアップ]
- [保存] をクリックします。



「退避する工事の選択」画面が表示されますので、保存する工事を選択します。
 フォルダ単位で工事をすべて保存する場合は、「退避する工事の選択」画面
 左下の「工事フォルダも退避する」にチェックを付け、保存したいフォルダを
 選択します。

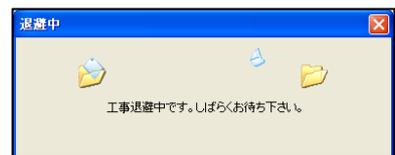
選択が終わりましたら、[次へ]をクリックします。



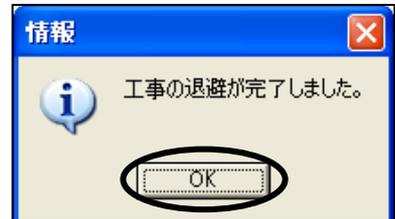
工事データの保存先を選択、ファイル名を入力し、
 [保存]をクリックします。
 「保存する場所」に現在開いているドライブもしくは
 フォルダが表示されます。



工事の保存が開始されます。
 保存する件数によっては、少々時間がかかります。



右図のメッセージが表示されると、工事の保存は完了です。
 [OK]をクリックし、工事の保存を終了します。



Gaia9にて工事の読込を行う

Gaia9 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。

[スタート] - [プログラム] - [Gaia9 ネットワーク版(***)] - [Gaia9]をクリックします。(***は Client または Server
 です。)

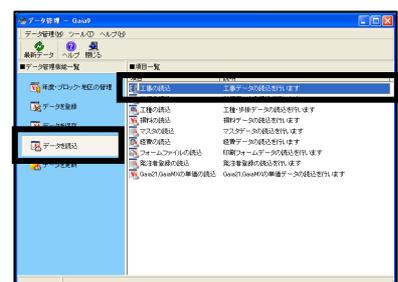
工事名表を開き、ツールバーの  をクリックします。

メニューバーの[工事] - [工事を読込]をクリックしても同様です。

Gaia9 サーバーの場合、[Gaia9 起動メニュー] - 「データ管理」画面から
 工事を読み込むこともできます。

「データ管理」画面左側の「データ管理機能一覧」より、
 [データを読込]をクリックします。

画面右側の「項目一覧」より、「工事の読込」をダブルクリックします。



<印刷フォームの場合>

印刷フォームは、[Gaia9 起動メニュー] - 「データ管理」画面または[Gaia9 起動メニュー] - 「フォームエディタ」画面から保存します。

「データ管理」画面の場合、画面左側の「データ管理機能一覧」より、「データを読込」をクリックします。

画面右側の「回避項目一覧」より、「フォームファイルの読込」をダブルクリックします。

「フォームエディタ」画面の場合、メニューバーの[ファイル] - [バックアップ] - [読込]をクリックします。



読み込む工事データの保存ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

「ファイルの場所」に現在開いているフォルダもしくはドライブが表示されます。

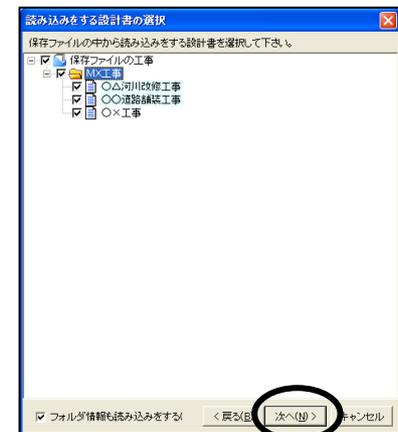


「読み込みをする設計書の選択」画面が表示されます。

読み込む設計書にチェックを付けます。

フォルダ単位で工事をすべて読み込む場合は、「読み込みをする設計書の選択」画面左下の「フォルダ情報も読み込みをする」にチェックを付け、読み込むフォルダを選択します。

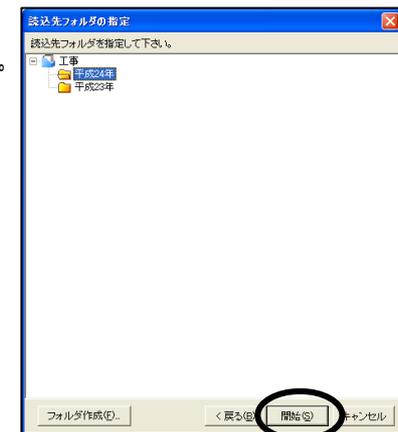
[次へ]をクリックします。



「読込先フォルダの指定」画面が表示されます。

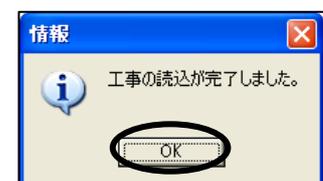
工事・設計書を読み込むグループ(フォルダ)を選択し、[開始]をクリックします。

画面左下の[フォルダ作成]をクリック、または右クリックメニューの[新規作成]をクリックすると、グループを新規に作成することができます。



右図のメッセージが表示されましたら、工事の読込は完了です。

[OK]をクリックします。



制約事項

- ・GaiaMX、Gaia21 から移行できるデータは下表の通りです。
- ・データによっては移行できないものもあります。

移行元	移行項目									
	マスタ	単価	歩掛	経費	工事	ユーザー管理	単語リスト	オブション (設計書入出)	工種履歴	印刷フォーム
Gaia21 スタンドアロン	x	*	*	x		x	x	x		
Gaia21 サーバー	x	*	*	x	-	x	x	x		
Gaia21 クライアント	-	-	-	-		-	-	-	-	-
GaiaMX サーバー	x	*	*	x		x	x	x		
GaiaMX クライアント	x	*	*	x		x	x	x		

- …移行可能 …条件付で移行可能(内容は下記参照) x…移行不可
* …Gaia9 サーバーのみ条件付で移行可能(クライアントでは移行できません)

< 工事データ >

- ・Gaia9 の単価データ、損料データで該当する単価がない場合は、すべて手書き行に変換されます。
- ・工事内で使われている単価も Gaia9 の単価につなぎかえられますが、GaiaMX、Gaia21 で使っていた金額が Gaia9 に移行されていない場合、元参照や再積上で意図しない金額に変更される場合があります。
(例: GaiaMX、Gaia21 で0円1円単価の項目に金額を入力していた場合、0円1円単価に戻る。など)
- ・GaiaMX、Gaia21 の工事データの移行は、GaiaMX、Gaia21 の工事名表から[工事を退避]を実行し、Gaia9 の工事名表から[工事を読込]を実行して移行します。
[Gaia9 起動メニュー] - [データ管理]の[データを読込] - [工事の読込]からでも工事データを読み込むことができます。
詳しくは、「[GaiaMX・Gaia21 にて工事の保存を行う\(P.13\)](#)」の手順をご参照下さい。

セキュリティについて

- ・工事に対するセキュリティはすべて EveryOne(どなたでも使用していただける状態)となります。セキュリティを使用する場合には、読込後、工事セキュリティを再度設定していただく必要があります。

移行した工事データのご使用前の処理について

- ・工事を読み込んだ直後は、読み取り専用となります。
- ・総括表にて、発注者の選択、入札年月日の入力を行うと、編集が可能な状態になります。
- ・読み込んだ工事を編集可能な状態で初めて開く場合は、必ず再積上げを行います。

豪雪補正について

- ・Gaia9 では、工種データ(歩掛)に損料の豪雪補正をかける / かけないを設定できます。
- ・総括表にて、損料にかかる豪雪補正の選択を行い、本工事費内訳書を開くと再積上げを行います。
- ・損料の豪雪補正をかけない設定がされている工種データ(歩掛)の損料は豪雪補正をかけない金額で計上するため、直接工事費が変わる場合がありますのでご注意ください。

番号について

- ・表の番号は、GaiaMX、Gaia21 の番号を保持した状態で移行します。
- ・読み込んだ工事にて、表の追加を行うなどした後に、新たに番号を振り直したい場合は、「本工事費内訳書」画面にて、メニューバーの[編集] - [番号振り直し]の「番号振り直し」画面を開いて下さい。
「番号を手書きした表の番号を残す」のチェックを外した後、[実行]をクリックし、番号の振り直しを行って下さい。
- ・その際、番号の名称は、「表種毎の個別設定」で設定されている番号の名称に変わります。

制約事項

< 工事データ >

経費について

- ・ GaiaMX、Gaia21 読み込んだ工事データを開くと、間接費の処理について確認画面が表示されます。
- ・ 「そのまま使用する」を選択した場合は、GaiaMX、Gaia21 の経費情報を保持します。
- ・ 「作り直す」を選択した場合は、間接費行を Gaia9 の経費データで作ります。
- ・ 間接費の積上げ分は、作り直した間接費の内訳書内に反映されます。
- ・ Gaia9 の間接費に内訳書がない GaiaMX、Gaia21 の間接費内の積上げ分は、直接工事費に移動され、移動された間接費の内訳書には、付箋が付きます。
- ・ 「作り直す」を選択した場合は、以下の点についてご注意下さい。

Gaia9 では、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の自動集計が行われます。

GaiaMX、Gaia21 から読み込んだ工事の間接費内で、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の積上げを行っている場合、直接工事費に移動した内訳書に対し、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の情報を自動で設定されます。(内訳書を選択し、右クリックメニューの[間接工事費の対象]をクリックすると、確認ができます。)

自動で該当する間接費の対象額から差し引かれますが、GaiaMX、Gaia21 と異なり、直接工事費にも計上されますので、経費計算の結果が異なります。必ず、経費計算結果をご確認下さい。

印刷 / Excel について

- ・ Gaia9 から、印刷の出力設定が、Excel 出力にも反映されるようになります。
- ・ GaiaMX、Gaia21 とは出力形式が若干変わる場合があります。

< 工事書庫データ >

- ・ 工事書庫データの移行については、まず工事書庫から工事データを取り出して下さい。
- ・ その後、工事データ同様に、GaiaMX、Gaia21 の工事名表から[工事を退避]を実行し、Gaia9 の工事名表から[工事を読込]を実行して移行します。
- ・ Gaia9 に読み込んだ工事データについての制限事項は、< 工事データ > の記述と同じとなります。

9. プロテクトドライバをインストールする

■ プロテクトドライバを個別にインストールする

通常の手順でGaia9のインストールを行ってもUSBプロテクトが認識されない場合に行います。
「エラー12 Calling Sproinitialize」というメッセージが表示される場合にも、この手順を行って下さい。

インストールを行う場合は、ログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを開始して下さい。(P.2 参照)

◆古いバージョンのプロテクトドライバがインストールされている場合は、削除を行ってからインストールして下さい。

◆古いバージョンのプロテクトドライバの削除方法

① <Windows XP の場合>

[スタート] - [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。

<Windows Vista/Windows 7 の場合>

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムのアンインストール] をクリックします。

② 一覧より「Sentinel System Driver」を選択します。

(見当たらない場合は削除の必要はありません。)

③ [削除] または [アンインストール] をクリックします。

USB プロテクトは接続していない状態で下記手順を進めて下さい。

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、[Gaia9 システム] を選択します。
「Gaia9 システム選択」画面が表示されますので、[Gaia9 ネットワーク版] を選択します。

<「積算システム インストールディスク選択メニュー」画面が自動起動しない場合>

[スタート] - [コンピュータ] を起動します。

「Gaia9」のDVDの中の「setup.hta」ファイルをダブルクリックすると、「積算システム インストールディスク選択メニュー」画面が起動します。

「積算システム インストール」画面が表示されます。



をクリックします。

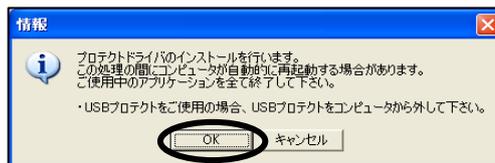
右図のメッセージが表示されます。

[OK] をクリックすると、インストールを開始します。

再起動を促すメッセージが表示される場合には、コンピュータの再起動を行います。

プロテクトドライバのインストールが完了したら、コンピュータにプロテクトを接続して下さい。
その後、再起動を促すメッセージが表示された場合は、コンピュータを再起動して下さい。

セットアップメニューからインストールできない場合は、プロテクトドライバを手動でインストールします(「[プロテクトドライバを手動でインストールする\(セットアップメニューからインストール出来ない場合\)](#)」(P.19)を参照)。



プロテクトドライバを手動でインストールする (セットアップメニューからインストール出来ない場合)

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されます。

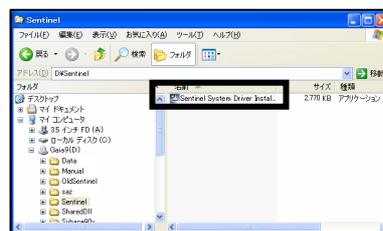
画面右上の  をクリックし、メニューを終了します。



[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [エクスプローラ]を起動します。



Gaia9 の DVD の中の「ネットワーク版」フォルダ内の「Sentinel」フォルダを開き、「Sentinel System Driver Installer 7.5.1.exe」のファイルをダブルクリックします。



WindowsVista / Windows7 / Windows Server 2008 の場合

Gaia9 の DVD の中の「ネットワーク版」フォルダ内の「Sentinel」フォルダを開き、「Sentinel System Driver Installer 7.5.1.exe」のファイルをダブルクリックします。

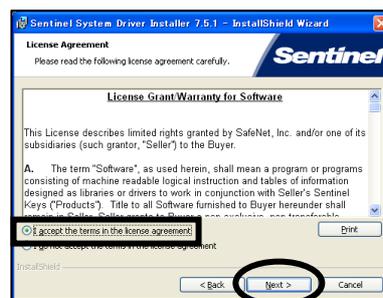
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。
[続行]をクリックすると、プロテクトのインストールを開始します。



右画面が表示されます。[Next]をクリックします。



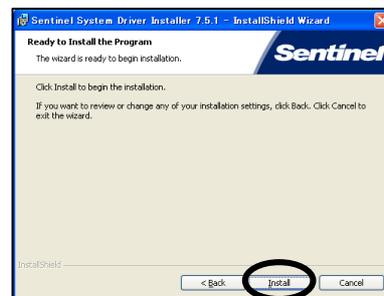
「I accept the terms in the license agreement」を選択し、[Next]をクリックします。



「Complete」を選択し、[Next]をクリックします。



[Install]をクリックすると、ファイルコピーが始まります。



[Finish]をクリックします。



英語で Windows の再起動の確認メッセージが表示される場合があります。
[Yes]をクリックします。(自動的にパソコンが再起動されます。)

[No]をクリックした場合は、手動でパソコンを再起動して下さい。
右画面が表示されない場合は、再起動の必要はありません。
次の手順に進んで下さい。



USB プロテクトを接続して、プロテクトのランプが点灯するか確認して下さい。
ランプが点灯した場合は自動的にインストールが始まり、完了します。

自動的にインストールが完了しない場合は、以下の手順を実行して下さい。

◆プロテクトのランプが点灯しない場合

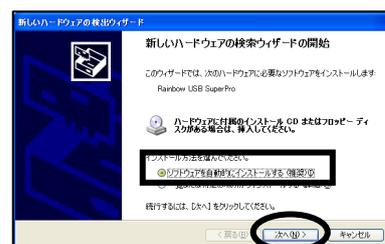
(機械の設定により、USB のサービスを使用できない状態である可能性があります。)

1. Windows を終了し、機械を再起動し、BIOS の設定画面を表示して下さい。
(BIOS の設定画面の表示方法はコンピュータの機種・メーカーによって異なります。コンピュータの取扱説明書等をご覧ください。)
2. USB の使用可・不可の選択を表示させて、USB=Enabled という設定にして下さい。
(この設定もコンピュータの機種・メーカーによって異なりますのでコンピュータの取扱説明書等をご覧ください。)

◆「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示される場合

「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、[次へ]をクリックします。

[完了]をクリックし、USB ドライバのインストールを終了します。



10.SQL Anywhere 9 を個別にインストール

Gaia9 をインストールすると、SQL Anywhere 9 がインストールされます。

なんらかの理由で SQL Anywhere 9 をアンインストールした場合、個別に SQL Anywhere 9 をインストールすることができます。

DVDドライブに「Gaia9」のDVDを入れます。DVDが読み込まれると、「Gaia9 インストールディスク選択メニュー」画面が表示されますので、[Gaia9 システム]を選択します。

「Gaia9 システム選択」画面が表示されますので、[Gaia9 ネットワーク版]を選択します。



「積算システム インストール」画面が表示されます。



をクリックします。



11.ダウンロード手順

工事名表のダウンロードメニューより、データの更新が行えます。

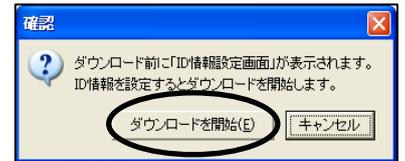
◆クライアントからのダウンロードでは、システムの更新と Excel 帳票のみ更新できます。

①「工事名表」画面にて、ツールバーの  をクリックします。

◆メニューバーの[サポート]－[ダウンロード]でも同様です。



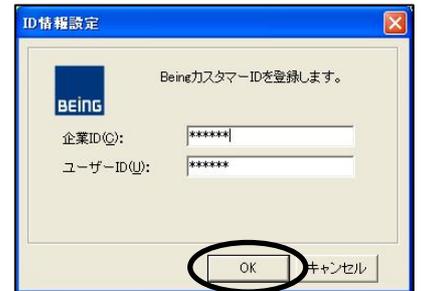
②ID 情報設定を行います。(初めてダウンロードを行う場合)
※2回目以降のダウンロードを行う場合、この画面は表示されません。
右図のメッセージが表示されます。
[ダウンロードを開始]をクリックします。



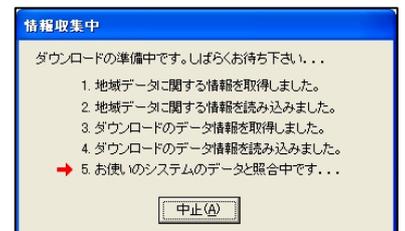
③「ID 情報設定」画面が表示されます。
「企業 ID」、「ユーザーID」を入力し、[OK]をクリックします。

◆企業 ID、ユーザーID については、ご購入時にお渡ししております
「Being カスタマーID のご案内」にて、ご確認下さい。

◆「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート]－[ダウンロード]
－[ID 設定]をクリックでも、「ID 情報設定」画面が表示されます。

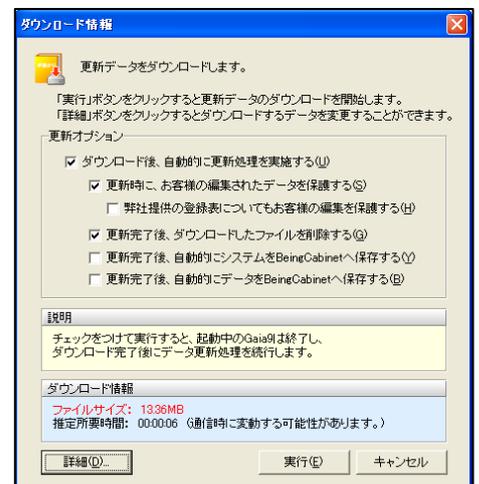


④右図の画面が表示されます。しばらくお待ち下さい。

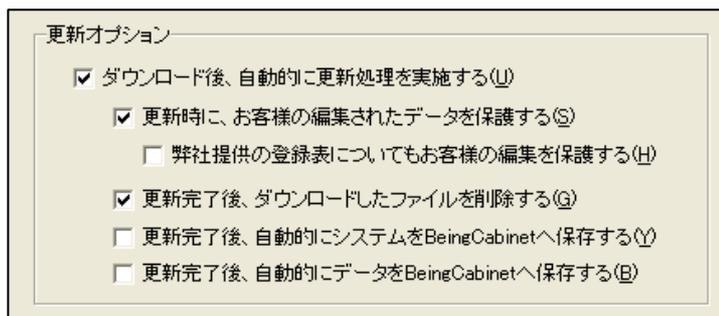


⑤「ダウンロード情報」画面が表示されますので、「更新オプション」を設定し、[実行]をクリックします。

◆更新を実施される場合、起動中の Gaia9 アプリケーションは
終了します。ご注意ください。



更新オプション



更新オプション

- ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する(L)
- 更新時に、お客様の編集されたデータを保護する(S)
 - 弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する(H)
- 更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する(Q)
- 更新完了後、自動的にシステムをBeingCabinetへ保存する(Y)
- 更新完了後、自動的にデータをBeingCabinetへ保存する(B)

「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」

「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けることで、ダウンロード後、自動でデータ更新処理を行います。

データ更新を行わない場合はチェックを外して下さい。

「更新時に、お客様の編集されたデータを保護する」

「更新時に、お客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。

この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と、年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」

「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けることで、弊社提供の登録表についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」

ダウンロードを行うと、データインストールフォルダ先の「Download」フォルダに保存されます。「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、ダウンロードしたファイルを自動で削除することができます。

「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたシステムを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたデータを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

(このチェックを付けると、自動的に「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」が有効になります。)

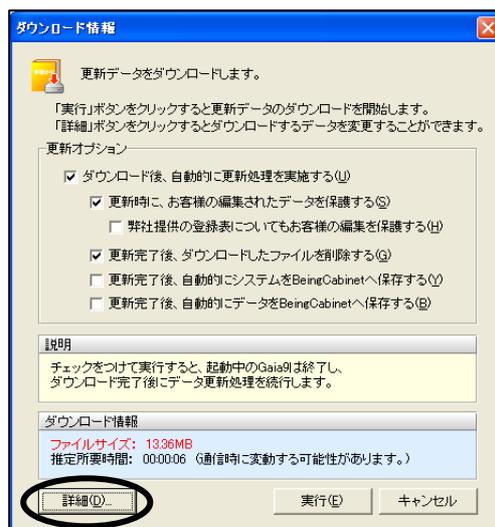
アップデートするデータの選択は、システムが自動的に検知して最適なチェックを行いますので、通常はそのまま[実行]をクリックして下さい。

「ダウンロード情報」画面左下の[詳細]をクリックすると、ダウンロードするデータを選択することができます。また、「工事名表」画面にて、メニューバーの[設定] - [対象地域設定]をクリックし、対象地域を選択することで、「ダウンロード - 詳細設定」画面に表示する地域を制限することができます。

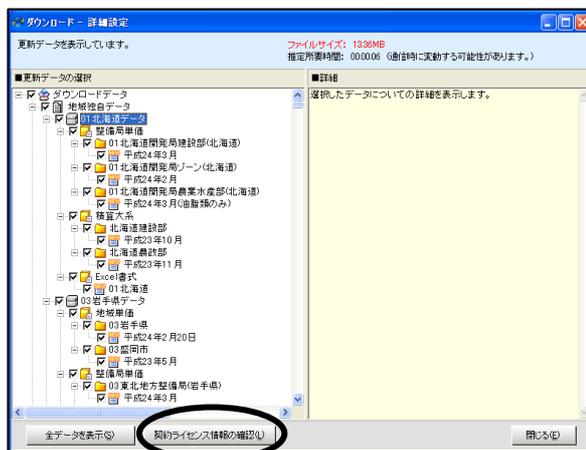
「ダウンロード - 詳細設定」画面左下の[全データを表示]をクリックすると、「更新済みのデータのチェックは無効になります。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、「更新データの選択」ツリー内で設定したチェックは無効になり、全データが表示されます。

契約済みの地域データを確認するには・・・

「ダウンロード情報」画面にて、[詳細]をクリックします。



「ダウンロード - 詳細設定」画面にて、[契約ライセンスの確認]をクリックします。



「契約ライセンス情報確認画面」が表示されます。契約済みの地域データには、が付いています。

確認が終了したら、[閉じる]をクリックします。



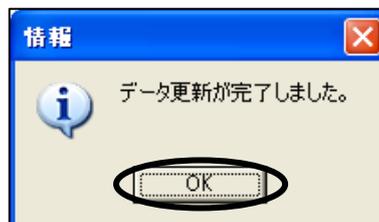
⑥ダウンロードが開始されます。



更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けた場合、ダウンロード後、自動的にデータ更新が開始されます。

しばらくお待ち下さい。

データ更新が完了すると、右のメッセージが表示されます。
[OK]をクリックして下さい。



●更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けていない場合

下図のようなメッセージが表示され、ダウンロードが完了します。

ダウンロードファイルが保存された場所とファイル名を確認し、[OK]をクリックします。



データ更新をする際は、[Gaia9 起動メニュー] - [データ管理] - [データを更新] - [ファイルから更新] より、保存したファイルを指定し、データの読込を行って下さい。

詳しくは、ツールバーの  ヘルプ をクリックし、ヘルプの「目次」タブ - 「データ管理」 - 「データ更新」 - 「ファイルから更新」 - 「ダウンロードデータを読み込む(データの更新)」をご参照下さい。

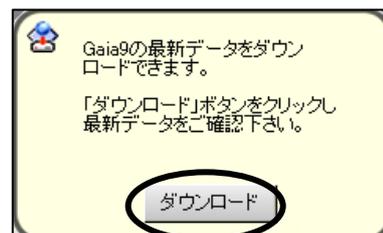
●更新オプションで「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」
「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けた場合

データ更新完了後に、自動で BeingCabinet に保存されます。

◆Gaia9 起動時に、「Gaia9 の最新データをダウンロードできます。～」のメッセージが表示される場合

2回目以降ダウンロードを行う場合で、ビーイングのダウンロードサーバーに Gaia9 の更新データがアップされている場合、ダウンロードを促すお知らせメッセージが表示されます。

[ダウンロード]をクリックし、最新データをご確認いただき、必要であればダウンロード・データ更新を行って下さい。
(「工事名表」画面にて、ツールバーの[ダウンロード]をクリックでも同様です。)



<お知らせメッセージの表示設定>

①「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート] - [ダウンロード] - [スケジュール設定]をクリックします。

②「ダウンロード設定」画面が表示されます。
起動時にダウンロードサーバーの確認を行うかどうかの設定、確認のタイミングの設定を行うことができます。

設定が終わりましたら[OK]をクリックします。



12.よくあるエラー

何らかの原因で予期せぬエラーが起きた場合、エラーメッセージが表示されることがあります。

発生箇所、エラーコード、詳細内容、システムバージョンを、弊社サポートまでご連絡下さい。

発生箇所

エラーが発生した【アプリケーション名】【画面名】の順に表示されます。

エラーコード

エラーの種類を9桁の数字で表します。

詳細内容

詳細なエラーメッセージが表示されます。

システムバージョン

現在、使用しているシステムのバージョンが表示されます。

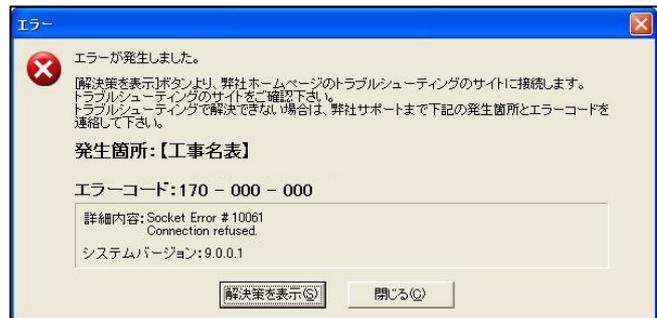
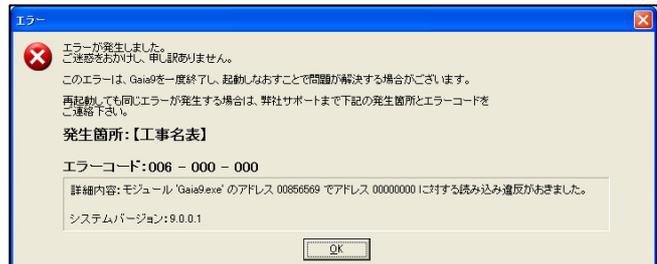
解決策を表示

[解決策を表示]をクリックすると、弊社ホームページのトラブルシューティングのサイトに接続します。

ユーザーサポートのメニュー「ツール」-

「インターネット」の設定にて、「インターネット機能を使用しない」を選択している場合、表示されません。

エラーの内容によって、表示されません。



コードからエラーの内容を確認する

以下の表に、主なコードをまとめました。トラブル解決の参考にして下さい。

コード	エラー内容	確認事項等
上3桁	エラーの種類を示します。	
064	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動に失敗したことを示しています。	他アプリケーションがインストールされているかどうかをご確認下さい。
065	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動はできたが、そのアプリケーション上での実行に失敗したことを示しています。	すでに他アプリケーションが起動していないかどうかをご確認下さい。
074	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。 (下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
079	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。 (下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
139	印刷フォームファイルの構成が正しくない可能性があることを示しています。	データインストールフォルダ¥Gaia9¥Forms 以下の構成が正しいかどうか等を確認するため、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

上3桁が「074」または「079」の場合は、以下も参考にして下さい。

コード	エラー内容
中3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。 エラーが発生している DB 名称や DB 内部の発生箇所を示します。
100～	工事管理 DB でエラーが発生していることを示しています。
200～	年度 DB でエラーが発生していることを示しています。
300～	パーソナル DB でエラーが発生していることを示しています。
400～	工事 DB でエラーが発生していることを示しています。
500～	歩掛 DB でエラーが発生していることを示しています。
600～	単価 DB でエラーが発生していることを示しています。
コード	エラー内容
700～	経費 DB でエラーが発生していることを示しています。
800～	マスタ DB でエラーが発生していることを示しています。
1100	ユーザーサポートの自動復旧ができなかったことを示しています。
下3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。 DB エラーの種類を示します。
035	読み込みに失敗しました。
071	キー違反です。
506	一般 SQL エラーです。

ダウンロード中のエラーの場合

コード	エラー内容	確認事項等
143	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト・ポートが閉じられている)	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。
150	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト) SocketError # 10060 SocketError # 10065 等	
170	インターネットに接続できなかったことを示しています。(サーバーへの接続に失敗) SocketError # 11004 SocketError # 11001 等	ダウンロード中にインターネットへの接続が不安定になったり、途中で切断されなかったかどうかご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。
12007	インターネットに接続できない、または、DNS の設定が正しくない、または、Proxy の設定が正しくないことを示しています。	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。
12031	ダウンロード中に接続が切断されたことを示しています。	接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。

13. Windows Vista/Windows 7 でご使用時の注意事項

Windows Vista で使用される場合の注意事項をお知らせします。制限事項等の最新情報は、弊社ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

Windows Vista 環境を快適にご使用いただくため、コンピュータの搭載メモリは 1GB 以上を推奨します。搭載メモリが 1GB 未満の場合は、動作が遅いなど、Gaia9 のほか一部のソフトウェアが正常に動作しないことがあります。

Windows Vista で Gaia9 をご使用される場合、Guest アカウントでログオンされると別のコンピュータにインストールした BeingCabinet に正常にネットワーク接続できない場合があります。Users 権限以上のアカウントを作成して使用されることを推奨します。

製品の検証環境

対応する「Windows Vista」製品は以下のとおりです。

- ・Windows Vista Home Basic 日本語版 (*1)
- ・Windows Vista Home Premium 日本語版 (*2)
- ・Windows Vista Business 日本語版
- ・Windows Vista Enterprise 日本語版
- ・Windows Vista Ultimate 日本語版

対応する「Windows 7」の製品は、以下のとおりです。

- ・Windows 7 Home Premium 日本語版 (*3)
- ・Windows 7 Professional 日本語版
- ・Windows 7 Ultimate 日本語版

(*1、*2、*3 は Gaia9 サーバーを除く)

Windows Vista で起動に時間がかかる場合

BeingCabinet と Gaia9 が異なるコンピュータにインストールされており、両方の OS が Windows Vista 以降の場合、Gaia9 を起動すると時間がかかる場合があります。

該当する環境

BeingCabinet と Gaia9 が異なるコンピュータにインストールされており、両方の OS が Windows Vista 以降の場合

現象

Gaia9 を起動すると、完全に起動するまで 30 秒程かかる。

対処方法

BeingCabinet と Gaia9 をインストールしたすべてのコンピュータで、以下の操作を行って下さい。

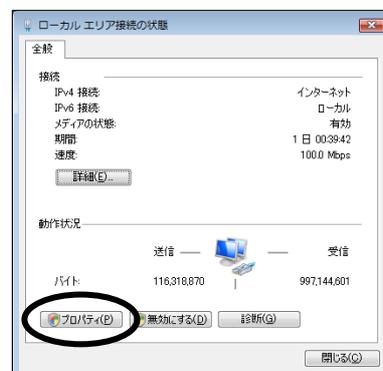
スタートメニュー[ネットワーク]で、右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。
「ローカルエリア接続」の右側にある[状態の表示]をクリックします。

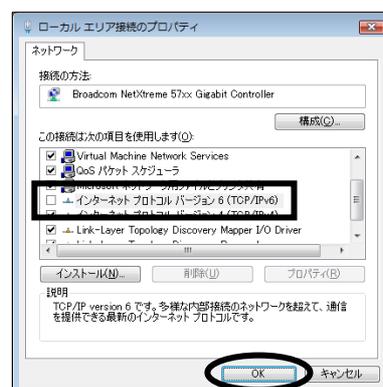


「ローカルエリア接続の状態」画面にて、[プロパティ]をクリックします。



「ローカルエリア接続のプロパティ」画面にて、「インターネット プロトコルバージョン 6 (TCP/IPv6)」のチェックを外します。

[OK]をクリックします。



すべての画面を閉じ、Windows を再起動します。

14. 「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」

と表示される

[積算システム]をクリックすると「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」とエラーメッセージが表示された場合にご確認下さい。

Windows のログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。

現象

Gaia9 インストール時に[積算システム]をクリックすると、「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」というエラーメッセージが表示される。
下記のレジストリがオンに設定されている場合に、このエラーメッセージが表示されます。

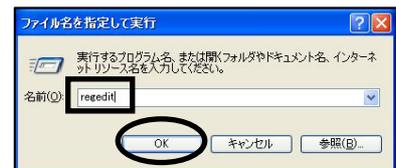
- ・レジストリの場所
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SYSTEM ¥ ControlSet001 ¥ Control ¥ FileSystem
- ・キー
NtfsDisable8dot3NameCreation

対処方法

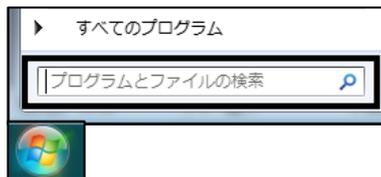
レジストリの設定をオフに切り替え、再度インストールします。

[スタート] - [ファイル名を指定して実行]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。

「regedit」と入力し、[OK]をクリックします。

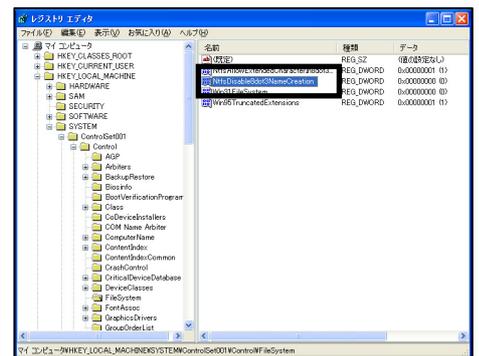


<Windows7 の場合>
スタートメニューの上の
「プログラムとファイルの検索」に
入力します。



「レジストリエディタ」画面が表示されます。

¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SYSTEM ¥ ControlSet001 ¥ Control ¥ FileSystem
を開き、「NtfsDisable8dot3NameCreation」をダブルクリックします。



右画面が表示されます。

「値のデータ」欄の数値を[0]に変更し、[OK]をクリックします。



以上で、「NtfsDisable8dot3NameCreation」レジストリの設定がオフに切り替わりました。

15. BeingCabinet の使用について

Gaia9 ネットワーク版は、この BeingCabinet を使用して「キャビネットライセンス」を認識しています。

BeingCabinet をインストールすると・・・

BeingCabinet をインストールしたサーバー用コンピュータに、ネットワーク経由で接続できる環境であれば、BeingCabinet に保存されているデータを、Gaia9 をインストールしたコンピュータで共有することができます。
BeingCabinet と同じコンピュータに Gaia9 をインストールしている場合も同様です。

- ・工事データをサーバー用コンピュータに保存し、他の Gaia9 サーバー、Gaia9 クライアント、Gaia9 スタンドアロン版と共有できます。
- ・単価、歩掛、損料、Excel 帳票、経費、発注者データを BeingCabinet に保存し、他の Gaia9 サーバーまたは Gaia9 スタンドアロン版にて、ダウンロードして使用することができます。
Gaia9 クライアントは Excel 帳票、設計書入出力オプションの様式のみダウンロードできます。

サーバー用コンピュータに、BeingCabinet をインストールします。

BeingCabinet のサーバーと Gaia9Server 版のサーバーは同じである必要はありません。

BeingCabinet のインストール方法については、「BeingCabinet インストールマニュアル」をご参照下さい。

Gaia9 サーバーをインストール時であれば、「インストールマニュアル BeingCabinet の設定」の手順にて、設定を行うことができます。

Gaia9 サーバー、Gaia9 クライアント を起動すると、自動的に BeingCabinet に、更新データがないかどうかチェックを行います。

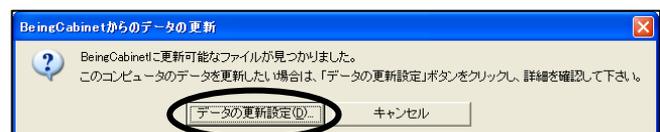
「Gaia9Server 起動メニュー」で、[積算][データ管理][ユーザー管理][経費エディタ][フォームエディタ]を選択した場合と、Gaia9 の[積算]を直接起動した場合に差分のチェックが行われます。

BeingCabinet に更新可能なファイルがない場合

起動メニューで選択した画面がそのまま表示されます。更新の必要はありません。

BeingCabinet に更新可能なファイルがある場合

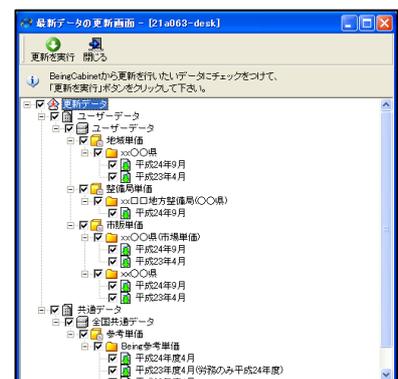
右図のメッセージが表示されます。



< データの更新を行う場合 >

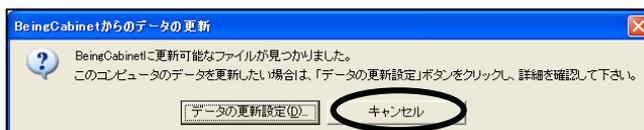
[データの更新設定]をクリックします。「最新データの更新」画面が表示されますので、更新したいデータを選択します。
後述の「手順」にお進み下さい。

Gaia9 クライアントでは、システム更新、Excel 帳票、設計書入出力のオプションの様式のみダウンロードできます。



<データの更新を行わない場合>

[キャンセル]をクリックすると、データの更新を行いません。起動メニューで選択した画面が、表示されます。※データの更新を行わない場合も、通常の作業を行うことができます。



◆データの更新を行わなかった場合

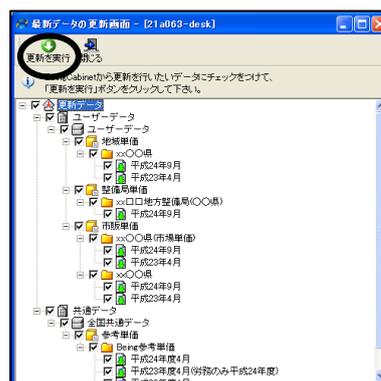
画面下のステータスバーに、「BeingCabinetに更新可能なデータが見つかりました。」と、お知らせが表示されます。



起動時にデータの更新を行わなかった場合でも、ツールバーの  をクリック、または、メニューバーの [ツール] - [BeingCabinet] - [BeingCabinet から最新データを更新] にてデータの更新ができます。

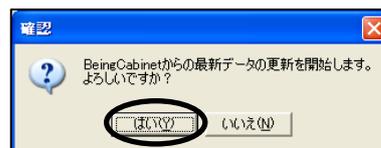
④BeingCabinet とお使いのパソコンのデータを比較し、差分があるデータには、自動的にチェックが付きます。

更新を行うデータを確認し、  をクリックして下さい。

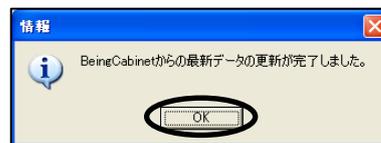


右図の画面が表示されます。よろしければ[はい]をクリックして下さい。

データの更新が開始されます。更新するデータの量によっては時間がかかる場合があります。



すべてのデータの更新が完了すると、右図の画面が表示されます。[OK]をクリックし、終了して下さい。



◆BeingCabinet ヘデータの保存

BeingCabinet ヘデータの保存をすることもできます。BeingCabinet ヘデータを保存しておくと、他のコンピュータとのデータの共有が、簡単に実現できます。

「Gaia9 起動メニュー」で[積算]もしくは[データ管理]を起動、または、データ更新後に BeingCabinet ヘデータの保存をすることができます。

BeingCabinet へのデータの保存方法については、ヘルプ「目次」タブ「積算を行う」-「工事名表」-「BeingCabinet 書庫サーバー」-「BeingCabinet 連携」-「工事名表から更新データを BeingCabinet 書庫サーバーに保存する」および「データ更新ツールから更新データを BeingCabinet 書庫サーバーに保存する」をご参照下さい。

16.インターネットプロテクトについて

■お客様ご契約情報について

工事名表の[サポート]－[BeingWeb ページ]－[お客様ご契約情報]をクリックすると、「お客様ご契約情報」が表示されます。

お客様ご契約情報では、

- ライセンス情報の確認
- メールアドレスの設定
- パスワードの変更

が行えます。

※お客様契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業 ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。

■ライセンスを変更する場合

インストール終了後に、ライセンスを切り替えることができます。

(初期設定を行う)

Windows のスタートボタンから、[すべてのプログラム]→[Gaia9]→[ツール]→[Gaia9 初期設定]にて、行って下さい。

■ライセンスの返却について

ライセンスを返却するには、Gaia9 を起動し、

工事名表のツールバーの  をクリックします。

(工事名表メニューの[工事]－[ライセンスを返却して終了]をクリックでも同様です。)



返却したライセンスは他のコンピュータで使用できます。

次回起動時は、インターネットに接続し、空きライセンスを取得することにより起動できます。

- ・ライセンスを占有したままコンピュータが故障した場合は、強制返却を行います。
強制返却は、「お客様ご契約情報」の「ライセンス情報」より行って下さい。

※「お客様ご契約情報」は、工事名表の[サポート]－[BeingWeb ページ]－[お客様ご契約情報]をクリックすると、表示します。

※お客様ご契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業 ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。

17. Gaia9 ネットワーク版のインストールマニュアル、インストール FAQ を表示する

DVDドライブに「Gaia9」のDVDをセットし、表示される選択メニューで「Gaia9 ネットワーク版」を選択します。「積算システム インストール」画面が表示されます。



をクリックすると、インストールマニュアルを表示します。



をクリックすると、インストール FAQ(本マニュアル)を表示します。

